

ロシア情勢とウクライナ戦争の行方

ジャーナリスト 石川一洋



- *工業都市のドネツク州ポクロウシクが主戦場
- *ドローンによる軍事革命で戦い方も激変
- *ロシアの戦死者はアフガン侵略の10倍以上
- *「まず停戦」に舵を切ったゼレンスキー
- *和平を急ぐトランプの思惑
- *ロスネフチへの制裁はプーチンとのディールのカード
- *戦況的には不利でも外交的にはウクライナが有利
- *プーチンは戦争を止めることができるのか
- *高市総理の所信表明にロシアが反応
- *NATO諸国に軍事力増強の圧力をかけるトランプ

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、ジャーナリストの石川一洋さんをお迎えしました。皆様ご存じのように、石川さんは長らくNHKのロシア報道の真ん中でお仕事をされてきて、今でも解説委員としてお話をされております。東京大学のロシア語ロシア文学科を卒業後、NHKに入局されて、今日までロシア問題一筋でこられた方です。今日も「おはよう日本」の「ここに注目！」のコーナーに登場され、こちらに来ていただきました。「みみより！解説」とか「時論公論」といった番組でも、ロシアの問題、ウクライナ戦争の問題等を論評されています。

ウクライナ戦争については、トランプ大統領がすぐに停戦させられる、和平へ持つていいける

と言つていきましたが、依然膠着状態です。膠着の中でいつたい何が行われているのかということもたいへん気になりますし、最近はドネツク州で要衝のポクロウシクというところで激しい攻防を繰り返しています。いつたいこれはどういう意味があり、なぜこのような事態になつているのか、そういう物事の実相や深いところを今日はお話しいただきたいと思つております。

それでは石川さん、よろしくお願ひいたします。（拍手）

石川 よろしくお願ひいたします。ただいまご紹介いただきました石川一洋と申します。NHKに入つてから、かれこれ43年ぐらいロシアへの軍事侵攻、戦争の現状と、今後どうなる